

# 平成26年度 上田市立菅平小・中学校 学校自己評価考察＜前期＞

## 【教育活動】の考察

### ○学習活動

学習への興味・関心については、昨年度後期と比較すると、保護者の方からは小中ともに意欲の向上が見えたという評価を頂いています。それに連動するかのように、児童・生徒も同様に考えられています。一方、教職員は「意欲向上に対して、特に目立った工夫をしてはいない」と、自己評価しているが、地味でも日ごろの努力の積み重ねが大切であることを意識し取り組むでると考えられます。まさに「継続は力なり」を実践していることを自負しています。

小中一貫教育に関わっては、保護者、児童・生徒からは高い評価を得ている。教職員の取り組みが直接的に意欲向上に繋がっているのではないかと考えられます。

### ○生徒指導

児童・生徒理解という面では、大きな変化は見られが、保護者、児童・生徒、教職員ともに高い評価です。細かく見ると、保護者の方からは学校からの発信に高評価を頂いているが、教職員はそうとは考えておらず、「もっとできることがあるはず！」と考えています。

生徒指導上の大きな問題はないが、細かい点では中学校において、「仲間との協力意識」がやや低下傾向を示しました。協力を意識できる行事が少なかった時期ではあるが、日ごろからできる協力ということをねらう必要を感じます。

### ○キャリア教育

小学校で行われている栽培や体験の活動は、概ねよい評価です。一方、「明確な目的が見えない」という意見も少なからずあります。

中学校では、保護者からは高評価を頂いているものの、肯定的に捉えられない生徒も少数ですがいます。そのため、「どのようなことが菅平にとってプラスになることか」「そのために自分は何ができるのか」など考える機会が必要と考えます。

## 【教育活動】の成果および方向性・改善策について

### ◇小学校

小中乗り入れ授業の成果として、特に算数ではコース別やT T指導を効果的に行えているところでは、児童の授業への意欲が高まり、単元テストの点数も向上をみせています。今後も継続するとともに、さらに水曜日と木曜日の算数（算数道場）と国語（言葉道場）のドリル学習の時間を特設し、学力向上につなげていきたいと考えています。

仲間関係の構築という点では、給食指導にT Tに関わったり、行事等連学年で対応したりすることで多くの目で見ることのできた集団作りを心がけて来ました。今後は定期的な会議以外でも職員が集まり、情報交換を行っていききたいと考えています。

畑作業が一段落する後期に向けて、まとめとしての学習や「働くこと」についての学習を深めたいと思います。

### ◇中学校

全国学力調査の良好な結果を見るにつけても、日ごろの指導の成果と受け止めています。今後も継続するとともに、より一層の向上を目指したいと思います。また、全国的、特に長野県の課題となっている「活用」については、本校でも同様なため、応用力強化に向けた取り組みをしていきたいと思っています。

仲間との協力を必要とする場面では、中学校では文化祭が一つのピークを迎えるものと思います。そこに向けたエネルギーを今後どう生かすかが課題となると思われます。それらは、給食準備、清掃場面、学級活動など、地に足のついた生活を心がけていくことで叶うと思われます。

後期に向けては、中学3年生はいよいよ進路実現のための具体的な活動になると思われます。また、中学2年生は、生徒会を始めとする様々な場面で中3から引き継ぎ、最高学年としての心構えを作る時期に入ってきます。さらに中学1年生では、先輩になるための準備期間となり、来年4月早々には職場体験学習に向けた学習も始まります。どの学年も将来に目を向けるための大切な時期となりますが、何れも「故郷・菅平」との関連を意識したものとして考え、取り組んでいきたいと思っています。

### ◇小・中共通

上田市では、学力向上が早急な課題とされています。また、小中連携（小中乗り入れ授業）も課題とされています。後者については、ここ菅平小中学校は、早い時期から実現されており、市内でも先進的な活動が行われていると思われます。この体制を前者へ生かす段階が求められていますので、小

から中への繋がりを意識した学習活動をより一層行っていきます。

また、いよいよスキーの季節がやって参ります。小・中学校はスキー活動をしっかりと位置づけ、校技スキーを充実させていきたいと思ひます。

## 【学校運営】の考察

### ○学校作りへの参加

保護者から見た教職員の児童・生徒への関わりについては、例年通りの肯定的評価を頂いています。その中で、小学校では「先生に相談しづらい…」との意見もありました。それは、教職員からも「児童を十分に見てあげられていない。」「保護者と悩みを分かち合えない。」などの意見もあったことから、今後は相談の時間を十分に確保していきたいと考えています。このことについては、中学校でも少数ではありましたが、同様の意見があったので、相談時間の確保に努めていきます。

この差は、学級担任の平均年齢（小学校32.0歳、中学校39.7歳）に起因すると思われますが、実際に授業を行っている教職員の平均年齢（小40.0歳、中43.9歳）は、小中乗り入れの影響もあり、差は小さくなっています。

このことから、教職員に対しては、小・中遠慮なくお声がけして頂ければと思ひます。

### 【教育活動】の成果および方向性・改善策について

#### ◇小学校

若い教職員が多いながら職員間の連携はより強固になってきていると思ひます。児童の対応に関することから、保護者への対応、日々の学校運営に関わるどころまで、日常的に情報交換に努めています。今後は、学級通信等の交換も密にしたり、教頭・教務主任を始めとする経験豊富な職員からのアドバイスも取り入れた紙面作りに心がけて参ります。

#### ◇中学校

中学校では、職員室内での情報交換は頻繁に行われているのが実情です。学校からの発信についても、今までと同じように小まめに行いたいと思ひますが、より一層内容の濃いものを心がけて参ります。

#### ◇小・中共通

2学期から学校に「オクレンジャー」が導入されました。このシステムを単なる連絡網の代わりとするだけでなく、学校からの発信手段の1つととらえ、学校と家庭との距離感を縮めていこうと考えています。ご期待下さい。

## 【その他】の考察

小学校に関しては、保護者、児童、教職員ともに明らかな向上が見えたと思ひます。一方、中学校では満足頂いている保護者が増えたものの、不安に感じられている保護者も増えたことは真摯に受け止めなくてはけません。それらは生徒の中からも傾向として出され、また教職員も十分理解し、把握していると思ひます。

### 【教育活動】の成果および方向性・改善策について

#### ◇小学校

行事が一段落したこれからは、落ち着いた雰囲気の中で学級作りを行います。後期人権同和月間なども利用し、自分と他との関わり方を深めるきっかけとしていきたいと思ひます。

#### ◇中学校

1学期に見られた傾向については、早急に対応をし、改善に向かっているかと思ひます。さらに、スキー活動が本格化するこれからの時期については、学校生活における不満や不安を取り除くために小学校と同様に、後期人権同和月間で、心を耕して行きたいと思ひます。

#### ◇小・中共通

引き続き、子ども達と向き合う時間や一緒に活動する時間を増やすとともに、個別に話を聞く機会を設け、子どもの気持ちを十分に受け止めたり、心の相談員やスクールカウンセラー、地域の方々とも連携を図り、児童・生徒が楽しい学校生活を送れるよう支援して参ります。